

2019年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年12月7日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東
 コード番号 3662 URL <https://www.a-tm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 岩切 邦雄 TEL 052-747-5573
 四半期報告書提出予定日 2018年12月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年7月期第1四半期の連結業績（2018年8月1日～2018年10月31日）

（1）連結経営成績（累計） （％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2019年7月期第1四半期	8,927	0.3	484	△49.7	507	△48.3	257	△62.1
2018年7月期第1四半期	8,904	24.8	963	228.4	980	235.3	678	390.9

（注）包括利益 2019年7月期第1四半期 257百万円（△62.1％） 2018年7月期第1四半期 679百万円（391.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年7月期第1四半期	13.19	13.16
2018年7月期第1四半期	35.39	35.23

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2019年7月期第1四半期	16,651	11,321	67.5
2018年7月期	16,702	11,655	69.3

（参考）自己資本 2019年7月期第1四半期 11,235百万円 2018年7月期 11,569百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年7月期	—	0.00	—	32.50	32.50
2019年7月期	—	—	—	—	—
2019年7月期（予想）	—	0.00	—	32.50	32.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年7月期の連結業績予想（2018年8月1日～2019年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	40,000	6.2	4,000	△14.9	4,000	△15.4	2,600	△21.4	131.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名） 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年7月期1Q	19,740,000株	2018年7月期	19,738,200株
② 期末自己株式数	2019年7月期1Q	228,762株	2018年7月期	253,762株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年7月期1Q	19,502,227株	2018年7月期1Q	19,170,180株

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口）が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社の四半期連結財務諸表に掲げられる科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。
なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは「みんなで幸せになれる会社にする事」、「今から100年続く会社にする事」を経営理念としています。この経営理念のもとすべての役員及び従業員が一丸となり、さまざまな技術領域・ビジネス領域において、インターネットを通じて個人の利用者の皆様に支持・利用していただけるゲームコンテンツ、比較サイト・情報サイトやECサイトなどの企画・開発及び運営を行っております。具体的には、「人と人とのつながりの実現」をテーマに、世界中の人々に娯楽を提供するスマートデバイス（スマートフォン及びタブレット端末）向けゲームやツールアプリケーションの企画・開発及び運営を行う「エンターテインメント事業」、人生のイベントや日常生活に密着し、有益な情報を提供する比較サイト・情報サイトなど、様々なウェブサービスの企画・開発及び運営を行う「ライフスタイルサポート事業」、完全組立自転車を中心にオンラインで販売し、自宅までお届けする自転車専門通販サイトの企画・開発及び運営を行う「EC事業」の3つの事業軸でビジネスを展開しています。

2019年7月期第1四半期は、売上高につきましては、エンターテインメント事業及びEC事業が前期比で減少となったものの、ライフスタイルサポート事業が好調に推移し、全体では前年同四半期比で横ばいとなりました。一方、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、エンターテインメント事業における既存タイトルの利益寄与の減少に加え、ライフスタイルサポート事業における新規事業への先行投資による費用増の結果、前年同四半期比で減少となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は8,927百万円（前年同四半期比0.3%増）、営業利益は484百万円（前年同四半期比49.7%減）、経常利益は507百万円（前年同四半期比48.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は257百万円（前年同四半期比62.1%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、自社で開発したオリジナルスマートデバイス向けゲームアプリケーション（以下「ゲームアプリ」）をApple Inc.が運営するApp Store及びGoogle Inc.が運営するGoogle Play等の専用配信プラットフォームを通じて、世界中の人々に提供しております。ゲームアプリ自体は基本無料で提供し、ユーザーがゲームをより効率よく優位に進めるためのアイテムを購入することで、そのアイテム購入代金がゲームアプリとしての売上となります。

2019年7月期第1四半期においては、新規ゲームアプリ「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」をリリースいたしました。2018年10月21日にGoogle Play、同10月28日にApp Store向けに配信開始し、無料TOPランキング1位、売上TOPランキング10位を記録するなど好調なスタートとなりました。一方、既存ゲームアプリにつきましては、全体的に売上が減少したため、エンターテインメント事業は前期比で減収減益となりました。なお、「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」の好調な推移に加え、第2四半期（11月、12月、1月）は年末年始需要期でもあり、既存タイトルにおいてもゲーム内イベント等による収益寄与が期待できることから、エンターテインメント事業の減収トレンドは当第1四半期で底打ちしたと見込んでいます。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は3,243百万円（前年同四半期比24.8%減）、セグメント利益は274百万円（前年同四半期比68.2%減）となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、引越し関連、自動車関連、ブライダル関連、金融メディア等様々な事業領域において個人の利用者に向けてサービスを展開する事業者と提携し、「三方よし」のサービス理念のもと、人生のイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等様々なウェブサービスを展開しております。個人の利用者へは基本無料でサービスを提供し、パートナー企業に当該利用者を見込客として紹介することに対する紹介手数料及び成約報酬が主な売上であります。

当セグメントでは、サブセグメントとして、引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業、その他があります。

2019年7月期第1四半期は各サブセグメントで増収幅は異なるものの総じて好調に推移しました。各サブセグメントにおいては、既存事業の育成に加え、周辺サービスを拡充しながら、新しい事業領域において新規サービスを複数立ち上げ、中長期的な成長に向けた投資を実施してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるライフスタイルサポート事業の売上高は5,173百万円（前年同四半期比30.8%増）、セグメント利益は642百万円（前年同四半期比16.6%増）となりました。

<EC事業>

EC事業では、東海、関東、関西3カ所に物流倉庫を構え、国内外から仕入れた200種類以上の完成品自転車を専属のプロ整備士により整備を行い完全組立自転車としてオンラインで販売、自宅までお届けする独自性の高い自転車専門通販サイトを展開しております。

当セグメントにおける主な売上は自転車の販売代金であります。

自転車通販サイト「cyma-サイマ-」は2013年12月にサービスを立ち上げて以来、フルフィルメント（注）の強化に努め、段階的に投資を重ねてまいりました。引き続き「自転車を買うならサイマ」というブランディングを目指しております。

（注）フルフィルメントとは、ネット通販における受注管理、在庫管理、ピッキング、商品仕分け・梱包、発送、代金請求・決済処理等、通販ビジネスで最も重要なコアプロセス全般を指します。また、苦情処理・問い合わせ対応、返品・交換対応等のカスタマーサポートや顧客データ管理等の周辺業務も含まれます。

2019年7月期第1四半期は通期での黒字化に向けて、物流オペレーション等、運営の最適化に向けた体制整備を優先した結果、売上は前年同四半期比で減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は510百万円（前年同四半期比19.5%減）、セグメント損失は63百万円（前年同四半期は44百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は16,651百万円となり、前連結会計年度に比べ51百万円減少いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加206百万円、流動資産のその他の増加248百万円があったものの、現金及び預金の減少413百万円、たな卸資産の減少162百万円があったことによるものであります。

② 負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は5,329百万円となり、前連結会計年度に比べ282百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等の減少543百万円があったものの、未払金の増加739百万円があったことによるものであります。

③ 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は11,321百万円となり、前連結会計年度に比べ333百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金の減少377百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、2019年7月期においても引き続き、各セグメント事業の強化・拡大を図るとともに、新たな事業の創出に向けた先行投資を進めながら事業ポートフォリオの強化を図ってまいります。そのためにも人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の強化に注力してまいります。

上記のような戦略を促進する観点で2019年7月期の連結業績見通しにつきましては、新たなサービスへの先行投資や人材・組織体制の強化等、次期以降の更なる成長に向けて、事業ポートフォリオとこれを支える事業全体の基盤強化の1年として位置づけた見通しとしております。

当第1四半期の売上高につきましては、EC事業がやや計画未達となったものの、エンターテインメント事業及びライフスタイルサポート事業が計画通りに推移し、全体では概ね期初の予想通りの着地となりました。

一方、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、主にライフスタイルサポート事業の各サブセグメントにおける利用者数の増加による利益寄与に加え、エンターテインメント事業において2018年10月にリリースした新規タイトル「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」が好調なスタートとなったことと、期初予想で織り込んでいた広告宣伝費の一部未消化により、全体の利益が期初の計画を上回る着地となりました。

なお、当第2四半期はエンターテインメント事業において、年末年始に向けて新作ゲームアプリ「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」及び既存大型タイトルのプロモーションを実施する予定です。

ライフスタイルサポート事業及びEC事業はビジネスの特性上、例年第3四半期が繁忙期であり、下期での売上と利益貢献を上期に比して多く予想しております。

加えて、ライフスタイルサポート事業を中心に、本年度上期には、複数の新規サービスへの投資が集中的に行われる等の要因も踏まえ、当社グループの営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は何れも下期に高い割合を占める結果となる予想をしております。

従いまして、通期連結業績につきましては現時点で期初予想を据え置くこととし、今後、業績見通しに変更が生じた場合には、速やかに公表いたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は、本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

2019年7月期通期業績見通し(2018年8月1日～2019年7月31日)

売上高	40,000百万円(前連結会計年度比 6.2%増)
営業利益	4,000百万円(前連結会計年度比 14.9%減)
経常利益	4,000百万円(前連結会計年度比 15.4%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,600百万円(前連結会計年度比 21.4%減)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,984	5,570
受取手形及び売掛金	4,128	4,335
たな卸資産	679	516
その他	706	955
貸倒引当金	△10	△6
流動資産合計	11,488	11,372
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,285	1,296
その他（純額）	398	391
有形固定資産合計	1,684	1,688
無形固定資産		
のれん	1,109	1,076
その他	961	1,077
無形固定資産合計	2,070	2,154
投資その他の資産		
投資有価証券	374	367
敷金及び保証金	686	773
その他	407	305
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	1,459	1,437
固定資産合計	5,214	5,279
資産合計	16,702	16,651
負債の部		
流動負債		
買掛金	465	356
短期借入金	100	100
1年内返済予定の長期借入金	33	33
未払金	2,417	3,157
未払法人税等	718	175
賞与引当金	—	25
販売促進引当金	12	12
株式給付引当金	43	—
役員株式給付引当金	—	5
その他	672	888
流動負債合計	4,464	4,754
固定負債		
長期借入金	52	45
資産除去債務	484	485
その他	45	44
固定負債合計	583	575
負債合計	5,047	5,329
純資産の部		
株主資本		
資本金	835	835
資本剰余金	829	829
利益剰余金	10,383	10,006
自己株式	△481	△438
株主資本合計	11,566	11,232
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益累計額合計	2	2
新株予約権	85	85
純資産合計	11,655	11,321
負債純資産合計	16,702	16,651

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2017年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2018年10月31日)
売上高	8,904	8,927
売上原価	1,476	1,765
売上総利益	7,428	7,162
販売費及び一般管理費	6,464	6,677
営業利益	963	484
営業外収益		
受取利息	0	0
投資事業組合運用益	9	17
為替差益	0	5
その他	6	7
営業外収益合計	17	30
営業外費用		
支払利息	0	0
支払手数料	—	7
その他	0	0
営業外費用合計	0	8
経常利益	980	507
特別利益		
新株予約権戻入益	2	—
特別利益合計	2	—
税金等調整前四半期純利益	982	507
法人税等	304	250
四半期純利益	678	257
親会社株主に帰属する四半期純利益	678	257

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2017年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2018年10月31日)
四半期純利益	678	257
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1	0
その他の包括利益合計	1	0
四半期包括利益	679	257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	679	257

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自2017年8月1日至2017年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテイ ンメント事業	ライフスタイル サポート事 業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,315	3,954	634	8,904	—	8,904
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,315	3,954	634	8,904	—	8,904
セグメント利益又は損失 (△)	865	550	△44	1,371	△407	963

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△407百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2018年8月1日至2018年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテイ ンメント事業	ライフスタイル サポート事 業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,243	5,173	510	8,927	—	8,927
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,243	5,173	510	8,927	—	8,927
セグメント利益又は損失 (△)	274	642	△63	853	△368	484

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△368百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。